

月刊 地域支え合い情報

東日本大震災の被災者の生活を支援するあなたのための情報紙です。



「イシノマキ・ファーム」にて、手作業で安心・安全な野菜を生産する「ユースサポートカレッジ石巻 NOTE」の皆さん

特集 若者と社会をつなぐ

- 思春期や青年期の不調に向き合い、「働きたい」「学びたい」を応援 ③
ユースサポートカレッジ石巻 NOTE (宮城県石巻市)
- 若者のもつ可能性が地域の可能性を広げる ⑤
特定非営利活動法人ハーベスト (宮城県仙台市青葉区)
- 若者が幸生する街、陸前高田をめざして ⑦
さいせい
一般社団法人 SAVE TAKATA (岩手県陸前高田市)

場の力⑨ 9
サポートスクエアばおばお (山形県山形市)

被災地でのサロン 男のつどい場の実践 ⑩

私の地域の元気興し ⑫

【特別記事】被災地で考える若者支援のあり方 ⑬

生きがい仕事⑫ ⑭
有限会社コンテナおおみ (宮城県登米市)

宮城県サポートセンター支援事務所からのお知らせ ⑮

場の力⑬ ⑯
みんなの家@ふくしま (福島県福島市)

若者と社会をつなぐ

子どもや若者が、夢を抱ける社会であってほしい。

そのために、大人は胸の張れる生き方を見せてほしい。

近くに見本があれば、

体験ができれば、

目標が見つければ、

若者たちは自分の足で自ら歩み出す。

地域のなかに、そんな大人がいるだけで

若者たちの居場所が見つかる。やる気が引き出せる。

地域も元気になって、いいことづくめ！

そんな石巻市・仙台市・陸前高田市の取り組みを紹介します。





イシノマキ・ファームは、すべて手作業の農園

思春期や青年期の不調に向き合い、「働きたい」「学びたい」を応援

◎ユースサポートカレッジ石巻 NOTE (宮城県石巻市)

ポイント

- 震災による新たな環境下での、思春期や青年期の不調に向き合い、伴走型支援を展開
- 多くの地元企業の協力を得て、若者の就労を支える

石巻駅から徒歩2分。ビルの3階に「ユースサポートカレッジ石巻NOTE」がある。若年層の「働くこと」と「学ぶこと」を支援する場だ。

平日10時15分から17時まで、利用登録した人たちが出入りして、パソコンの練習や就職活動のためのメイク講座、コミュニケーション講座、ウォーキングやスポーツ、農作業などのプログラムに自由に参加する。10〜20歳代が多く、参加費は無料。ここに通いながら体調を整え、興味のある分野を学ぶ。働きたい人向けには、有給の職場体験プログラムなどを用意し、同行支援やフォローアップなどを行う。

この日は10時半から12時にパソコン講座が開かれ、2人が参加。エクセルでの表とグラフの作成を学んだ。その周りで、4人がキーボードのタイピングなどの個人練習に励む。午前中で帰る人もいれば、周囲のお店で昼食をとり、午後のプログラムに参加する人もいる。教材やパソコンは、連携する日本マイクロソフト社から無償提供されたもの。ここで学んで、マイクロソフトオフィス

ペシャリスト検定に1000点満点で合格した高校生もあり、現在はアルバイトに励みながらプログラマーを目指して腕を磨く。

この日集まった6人のうち、10歳代は2人、20歳代は4人。これからの石巻を支えたいせつな人材だ。

思春期や青年期の

不調に向き合う

石巻NOTEを運営するのは、認定特定非営利活動法人Switch。障害のある人たちの就労を支援しようと2011年3月2日に旗揚げしたが、同月11日に東日本大震災が被災し、被災者支援に切り替えて仙台市や石巻市で活動を開始した経緯をもつ。

同年6月に仙台市で精神障害のある人を対象とした就労移行支援事業所「スイッチ・センダイ」を立ち上げる一方で、石巻市で震災をきっかけに職場を失い、次の仕事の目途が立たずに悩む人や、新しい環境に馴染むことができずに学校や職場から足が遠のく若者の存在が気になった。思



今野純太郎さん（右）と、小元愛さん

常務理事兼石巻NOTE 統括プロデューサー 今野 純太郎さん

「若者の『働きたい』『学びたい』という

前向きな思いを応援する」

春期や青年期の不調に向き合う事業者も不足していた。そこで、こころのケアをたいせつにして若年層の「生きる力」を育てたいと考え、13年6月、石巻駅前に「石巻NOTE」を開設した。翌14年に「仙台NOTE」を、15年には石巻NOTEの向かい側に「スイッチ・イシノマキ」を開設し、現在4つの事業所を18人のスタッフで運営する。

協力企業は39社！

石巻NOTEの14年度の登録者は53人、延べ利用者は210人。その4分の3が就労のための利用だ。メンタルケアにあたる支援団体や学校、行政機関などから紹介を受けて利用を始めた人が多く、スタッフの伴走型支援により、さまざまな体験を重ねて自分に合う仕事を探す。

短期が多い職場体験プログラム「インターンシップ」は33人が利用し、有給の職場体験プログラム「バイターン」は45人が利用。特にバイターンは長期に渡



パソコンの練習では、講座を受講するのか個人練習に励むのかを本人が選択

るため、単なる就職活動では得られない「縁」や「恩」や「情」にふれながら、社会との接点を模索できる。実際に、5人が就職につながった。

「石巻圏域には、趣旨を理解して職場体験を受け入れてくださる企業がたくさんある」と常務理事兼石巻NOTE統括プロデューサーの今野純太郎さんは話す。協力企業は、当初の18社から39社に増加。水産業や農業、お弁当の製造、自動車板金塗装、飲食サービスなど幅広く、さまざまな体験を重ねながら自分の適性を見極めることができる。就学・就労コーディネーターの小元愛さんも、「事

前にスタッフが仕事を体験させていただき、これは〇〇さんに合う仕事だな、と直感してコーディネートすることも多い」と話す。

中間的就労の場

石巻NOTEでは、体面やコミュニケーション、技術面などで最初から就職をめざすことが厳しい人のために、本格的に働く前の中間的な職業体験の場も用意している。

たとえば、牡蠣の出荷作業。共同作業をとおしてチームワークを学び、浜の漁師との交流から一次産業の楽しさを感じる参加者が多いという。

また、石巻NOTEから車で15分のところで、同法人が直営する農園「イシノマキ・ファーム」では、農作業の基本から販売までを体験できる。進路に悩んでいる人や、仮設住宅・復興公営住宅で暮らしている人が送迎付きで参加。自然が送迎付きで参加。自然農法と有機農法の手法を取り入れ、キュウリやトマト、カボチャ、タマネギ、ピーマンなどを生産する。除草剤

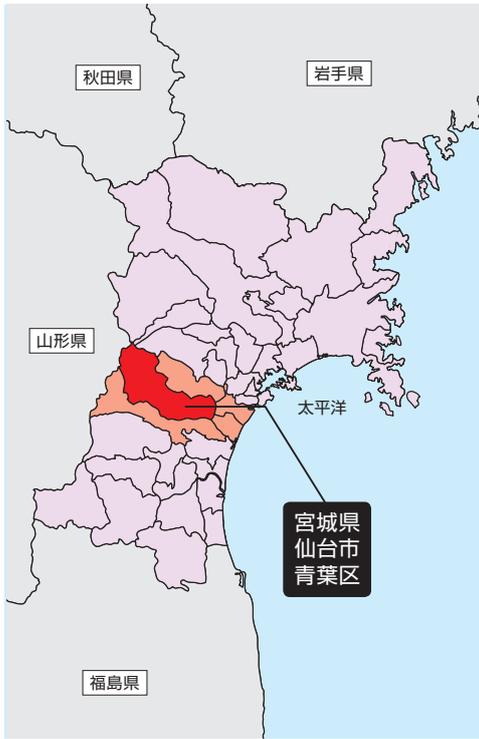
や農薬を使わず、草取りや苗・種の植え付け、水やりなどを手作業で担う。40〜50歳代の人もいて、多世代でのコミュニケーションやチーム作業を習得することができ。採れた野菜は、石巻NOTEのそばで直売したり、市内の飲食店に卸している。大根を10本まとめて買っていくお客様もいて、安心・安全な野菜は好評だ。今年度は畑を広げて、企業でも施設でもない第3の働く環境としてのソーシャルファームの機能を充実させることができればと意気込む。農園でのバイターンを増やしたいという目標もある。

夢は、宮城県全域で若者の「働きたい」「学びたい」という前向きな思いを応援すること。今日も、将来を担う人材を温かな目で見守り、育てる。 **小**

DATA

ユースサポートカレッジ 石巻NOTE

〒986-0826
宮城県石巻市鑄銭場8-23 日和ビル3階-A
TEL 0225-25-5374
FAX 0225-25-5384
E-mail info@npc-switch.org
URL <http://www.ishinomaki-note.org/>



講師の言葉が、生き方をより深く考えるきっかけに

若者のもつ可能性が地域の可能性を広げる

◎ 特定非営利活動法人ハーベスト（宮城県仙台市青葉区）

ポイント

- 新鮮な出会いが気づきを生み、若者の可能性を広げる
- 自分を語ることで住民が地域に貢献

ハーベストの主な活動は、「せんだい・みやぎオータムセミナー」と「授業導入型キャリアセミナー」だ。オータムセミナーは、ハーベストの出発点となった活動。愛知県の「愛知サマーセミナー」に倣って、2007年、任意団体として開催し始めた。年1回、大学を会場に、一般市民が講師となり、人生経験や、働くうえでたいせつにして

若者や子どもが自分の生きる道を自力で選び、目標に向かって進む力を得られるよう、きっかけづくりに励む、「特定非営利活動法人ハーベスト」。中高生が一般市民と向き合い、社会での経験や思いを聞ける機会を設けている。たくさんの偶然的な出会いが、個人の職業的価値観だけでなく、地域の未来をつくる。一人ひとりの響き合いが元氣な若者を育み、地域をおもしろくする。そんな出会いを、地域の人たちと一緒につくるのが、ハーベストのミッションだ。

心動かす出会いの場を

ハーベストの主な活動は、「せんだい・みやぎオータムセミナー」と「授業導入型キャリアセミナー」だ。オータムセミナーは、ハーベストの出発点となった活動。愛知県の「愛知サマーセミナー」に倣って、2007年、任意団体として開催し始めた。年1回、大学を会場に、一般市民が講師となり、人生経験や、働くうえでたいせつにして

いる思いなどを学生や若者に話す。1日に約40〜50講座が開講され、受講者は、自分が話を聞きたいと思う市民講師のもとへ行く。14年まで開催されたが、現在は休止している。

キャリアセミナーは、宮城県内の中学校、高等学校で、将来について考えを深めるキャリア教育や進路指導の一環として導入されている。基本的には、5〜15人ほどで車座になり、市民講師がそれぞれの生き方や働き方について話す。およそ50分間の講座を、1日に2コマ行い、ときには、受講者と講師が1対1で交流することもある。



キャリアセミナーで市民講師の話を熱心に聞く受講生



特定非営利活動法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治さん

「子どもや若者の成長エンジンに火をつけたい」

されることが多く、16年度は宮城県内の高校の3分の1以上で行われた。中学校と合わせると、実施校は50校近い。

普段は授業に関心が薄かったり、集中があまり続かないような生徒が、講師の話に目を輝かせ、前のめりで参加する場面も見られる。どちらのセミナーも、講師から人生で成功する方法を学びとるためのものではなく、人生の進路選択の幅広さにまず気づいてもらおうと狙いだ。思いどおりの人生よりも、失敗・苦労したこと、紆余曲折や山あり谷ありの人生について話すほうが、より受講者の心に響くこともあるという。

身の回りや、将来のことに悩んだりしやすい若者・子どもたちは、家族や教師以外の大人との新しい出会いで、生き方のヒントを新たに見つけていく。自分の未来を自ら切り拓く力の必要性にも気づき、学習やいろんな体験への動機を強める。

セミナー終了後、講師は、

受講者が書いた感想を読むことができ、自分の講座を客観的に振り返る。講師も受講生から学び、自分自身を見つめ直すことができる。

若者の未来は地域の未来

宮城県職員と2足のわらじで活動している、代表理事の山崎賢治さんは、もともと県職員として起業家人材育成などに携わっていたこともあり、「地域社会・企業を支える人材はどこからあるのか?」「これからあるべき人づくりとは?」という問題意識をもっていた。同様の関心をもつ、現常務理事の中山聖子さんと出会い、2人は、愛知サマーセミナーのことを知る。そこに、自分たちの探していた答えを見出して、仲間たちと、各地の取り組みを勉強し、宮城県でのオートタムセミナー開催に至った。

山崎さんたちは、第1回目を終え、参加が少なかった高校生の年代の人にもっと受講してもらいたい、刺激を受けてもらうことの意義を改めて感じていた。セミナーの実践と研究を繰り返しながら、09年にNPO法人化。事業規模を広げながら進んできた。

返しながら、09年にNPO法人化。事業規模を広げながら進んできた。

受講者に関して、「新しい出会いなどに消極的な人に参加してもらいたい」という思いもつのらせていた。セミナーなどに自発的に参加する人は、普段から積極的に出会いを求めたり、周囲からいろいろなものごとを学びとろうとする。一方で、そういういったことに消極的な人にこそ、自発性が高まるよう手伝う必要がある。

サマーセミナーやオートタムセミナーをベースに、高校生向けに企画したのが、キャリアセミナーだった。開催校の先生からは「普段見せない顔を生徒が見せた」と、生徒の視野を広げるのに非常に良い取り組みとして評価を受け、未開催の学校の先生からも「ぜひ、こちらの学校でも」と話があがった。

山崎さんは、「子どもや若者の成長エンジンに火をつけ、『自分の目指す世界や仕事をつくりたい!』という内発的動機を高めてもらいたい」と、参加

者の可能性を広げるべく、情熱を注ぐ。キャリアセミナーを、すべての学校で取り入れられるようなスタンダードなものにすることもめざしている。

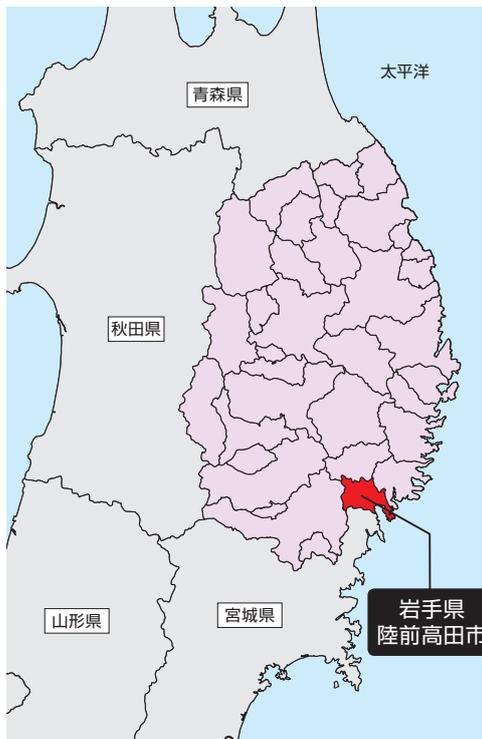
「誰もが先生、誰もが生徒、どこでも学校」というのがハーベストのセミナーのテーマ。社会で働き、学び、事業に賛同する人であれば、誰でも講師になることができ、現在約1700人が講師登録している。「セミナーの講師として、ぜひ地域の人に学校へ足を運んでもらいたい。皆さんが越えてきた人生の山や谷が若い人にとって将来を考える手がかりになる」と、山崎さんは語る。

あなたの人生経験も、若者や地域の将来の可能性を大きく広げるきっかけになるかもしれない。清

DATA

特定非営利活動法人 ハーベスト

〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町
2丁目10-33
第二日本オフィスビル9階
TEL 022-395-4311



さいせい 若者が幸生する街、陸前高田をめざして

◎一般社団法人 SAVE TAKATA (岩手県陸前高田市)

ライター：元持幸子

ポイント

- 若者の資格取得と就労訓練を同時に応援
- 高齢化が進む地域での農業を、若い力で衰退予防

「若者たちが、畑や自然のなかで楽しそうに語ったり、農作業をする姿が増えていることを期待しています。」
一般社団法人SAVE TAKATAの事務局長 松本玄太さん（38歳）は、若者が地域のなかで活躍することによって、岩手県陸前高田市が抱えている地域課題解決の糸口を見出そうとしている。同市は、震災を機に高齢化率が34・9%に至り、「高齢化」「若者流出」「二次産業の衰退」がさらに進行している。

農業の6次化 + 担い手づくり || 7次化

SAVE TAKATAは、農産物の生産から加工、販売までを手掛ける農業の6次化産業に、「担い手づくり」を加えた「7次化」をめざしている。同市米崎地区では、明治時代より、高台の斜面を利用したりんご栽培が行われていた。無袋栽培により、完熟まで待つて収穫される米崎りんごは、甘くて蜜の多いりんごとして人気を誇る。

高台にある果樹園の多く

は、津波の被害を逃れることができた。現在も約80軒のりんご農家が米崎りんごを生産しているが、年々高齢化が深刻になり、りんご農家が減少してきている。そこで、2013年から米崎りんごをブランド化し、加工や販売・サービスまで展開して付加価値を高める「6次化」で農家の収入を向上させ、若い担い手の創出を加えた。

これまで、地元住民と協力関係を築きながら、大学生など若者の交流事業を、全国の支援者ネットワークを生かし、行ってきた。これらの取り組みが、就労支援事業を開始するきっかけとなった。

学校などの教育機関に所属せず、無職で、就労に向けた活動や家事などをしていない15〜34歳の若者、いわゆるニート状態にある人たちは、現在全国で60万人を超えたといわれており、岩手県でも5000人以上いると推計されている。そこで、担い手として育成する主な対象を、若年無就労者や何らかの課題を抱えた若者とし、7次化のプロジェクトを開始した。就労支援に

取り組んでいる認定NPO法人育て上げネット（東京都立川市）によるサポートのもと、若者たちは陸前高田市にやってくる。

14年10月、農園での仕事体験（自立支援プログラム）をしながら、自動車運転免許取得をめざす19日間の合宿、「つながる合宿」を2回実施し、3人が参加した。免許証が身分証明の手段にもなるほか、運転ができることで就職先や働き方の幅を広げ、若者たちの社会参加へのあと押しとなっている。

さらに、米崎りんご農園で仕事を体験し、地域の住民との交流を深める。仲間や社会とのつながりを築く機会となっている。「農家の人と一緒に、太陽の光やりんごの樹などの自然にふれながら仕事をすることは、貴重な時間となっているようだ」と、松本さんは若者たちの変化を感じている。就農体験者からは「仕事でストレスが溜まっても、高田の人たちのことや、かけられた言葉を思い出すと、頑張れるようになった」「やってみれば、自分にもまだできることがあるのだと思った」などとい

う声が寄せられている。

100年続いてきた米崎りんごの果樹園を守り引き継いでいくことは、陸前高田の暮らしの風景や地域の誇りを未来につないでいくことになる。

松本さんは、地元農家と若者をつなぐことで、それぞれが自立に向かって進む仕組みづくりを今後展開する方針だ。16年度は、さらなる担い手づくりのため、自社農園でのりんごづくりにもチャレンジする。

これらの取り組みを通じて、若者も地域も美味しいりんごのように、手間と愛情を込めてたいせつに育てていくだろう。

DATA

一般社団法人 SAVE TAKATA

〒029-2205
岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1
高田大隅つどの丘商店街内9号
TEL 0192-47-3287 FAX 0192-47-3289
E-mail info@savetakata.org
URL http://savetakata.org

福島大学 行政政策学類 准教授

丹波 史紀 (たんば・ふみのり) さん

日本福祉大学大学院社会福祉研究科博士後期課程中退。名古屋市の知的障害児施設にて勤務後、専門学校講師や短期大学での専任講師を経て、2004年3月より福島大学行政社会学部助教授。新潟県中越地震で山古志村を支援した際の知識や経験を活かし、東日本大震災のあと、「福島大学災害復興研究所」を設立。現在はその主任研究員として、福島県内の仮設住宅で暮らす人々の生活の質を向上させる支援活動を行うなど、精力的に活動している。



専門家に聞く地域づくりのヒント

未来を切り拓く若者を
社会とつなぐこと自身が
地域の未来となる

3つのレポートを拝見し、そのいずれもが就労を含む若者のキャリア形成と地域社会をつなぐ取り組みだと理解しました。もう少し幅広くいえば、若者が社会のなかで生きていく「生き方」に寄り添うことによって、「若者と社会をつなぐ」ものになっているのでしょう。少子高齢社会や人口減少のなかで、国は「地方創生」というテーマで地方自治体のあり方を模索しています。そのキーワードになるのは若者が地域で生きていくことができる条件をどうつくるかでしょう。もちろんそれは受益者としての「若者」ではなく、一緒に地域をつくり出していく主体としての存在としてです。ただしその場合、今の若者たちがかかえる課題にきちんと応えているかどうかが大事です。その点で3団体のそれぞれが地域の課題と若者とをうまくかみ合わせているように感じました。

ユースサポートカレッジ石巻 NOTE

石巻NOTEは、若年層の「働くこと」(就労)と「学ぶこと」(学習)をうまく結びつけながら支援をされていると思います。思春期や青年期に心身の不調をかかえるのは、いままでの若者も起こりうる問題です。そうした状況にある若者たちにうまく「伴奏型支援」を展開されていると思いました。特に地元の協力企業との結びつきをうまくされていて、職場体験などを含むインターンシップ事業などを組み合わせながらサポートされています。特にスタッフが事前に仕事を体験し、オーダーメイドでその方に合う就労をコーディネートしている点が良いと思います。

特定非営利活動法人ハーベスト

中学生や高校生などを対象にして活動する「ハーベスト」は、地域全体で若者の生き方を支えていこうとする取り組みがうかがえます。たとえば地域の一般市民の方々が講師となり、自らの生き方を話すことを通じて身近で良いロールモデルを若者たちに実感してもらえ、試みであると思います。そんな「出会い」が新しい地域をつくり出していくという「共創関係」にあると思います。特にさまざまな機会を通じて、若者自身が生き方を考え、自らを変えるきっかけづくりを心がけていることが理解できました。

一般社団法人 SAVE TAKATA

震災により、一層の高齢化や人口流出に直面した陸前高田市において、農業を基軸にしながら、りんごを中心にしたブランド化をめざす同団体の取り組みは、非常にユニークです。特に6次化産業に加え、若者を中心にした「担い手づくり」をプラスした「7次化」という視点は大事です。さらに若者の就労支援も、自動車免許取得といった具体的な仕事を通じた社会参加の条件づくりをしていることが注目されます。

いずれの取り組みも、地域の課題を若者の生き方やキャリアに結びつけながら、課題解決を図ろうとしている取り組みで、その教訓は東北地方のみならず、日本全国の地域に関わる人の教訓となっていくでしょう。未来を切り拓く存在である若者を社会につなぐことが、これからの地域の未来をつくることにつながるのだと感じました。

青空のもと、
500羽の鶏を平飼いする。
山の上のきれいな空気。
地元のおいしい湧水。
人間が食べても安心な穀類中心の
手づくりのエサ。

最高のロケーションにある
「ふくふくファーム」がめざすのは、
養鶏での循環型農業。

障害のある人たちが365日お世
話をする。

みんな生きいき。

ここで生まれた「ふく福たまご」は
卵かけごはんなどで食べるのが一番！

平飼いの環境で、
すくすく育ってます



外での作業は、開放感と楽しさが満点

DATA

特定非営利活動法人障害者の
地域生活を支援する会

サポートスクエアばおばお

〒990-0052
山形県山形市円庵寺町7-10
TEL&FAX 023-625-3855
URL <http://www.hato-poppo.net/>



サポートスクエアばおばお。奥にあるのが「豆腐屋はとぼっぼ」



スタンプを押して、卵のパッケージが完成！



高品質の卵と豆腐

特定非営利活動法人障害者の
地域生活を支援する会では、
2007年に就労継続支援B型
事業所として「サポートスクエア
ばおばお」（定員20人）を開設。
豆腐の製造を手がけ、2年前から
養鶏にも取り組む。隣接する山辺
町の耕作放棄地を借りて、鶏舎5
棟を構え、毎朝車でメンバーと出
かける。屋外での作業は開放感に
あふれ、生きものが苦手だった人
もいつの間にか鶏に触れられるよ
うに。「養鶏は障がいのある人に
ぴったり」とばおばおのスタッフ
は話す。

鶏のエサになるのは、地元企
業・農家などから譲られた米ぬか
や酒米の白ぬか、古米、麩やパン
の切れ端など。原料を車でもらい
に出かけ、集めた原料を発酵させ
たり、生まれた卵をきれいにパッ
ク詰めしたり。パッケージのスタ
ンプ押しや配達・販売などの作業
もみんなで分担する。卵は品質が
買われ、東京・銀座の山形県アン
テナショップで販売中！めざすの
は、環境にも人にもやさしい循環
型農業。「地域に包まれ、また地
域を包んでいく場になれば」と話
す理事長の佐藤恵美子さんたちの
今後に注目したい。小

サロン活動は全国に広がり、
人と人とのつながりづくりに注目が集まっています。
仮設住宅から復興住宅への転居が進み、
コミュニティの維持が難しくなっているなかで、
地域でつながりをどのようにつくっていくか、
そして目には見えないつながりづくりの工夫を
3人の実践者に伺いました。

被災地でのサロン

男のつどい場 の 実践



男の談話室

宮古地域傾聴ボランティア・支え愛

代表 三浦 章さん(岩手県宮古市)



宮古地域傾聴ボランティア・支え愛は、2005年12月に発足し、介護施設や個人宅での傾聴活動を行っています。

東日本大震災では大きな被害を受けましたが、「地域の団体だからこそ行動をすべきでは」という声があり、2011年9月から、6か所の仮設住宅で月1回のサロン活動を開始しました。最初の頃はうつむきがちな利用者も、誕生会などの行事をとおして少しずつ笑顔になっていく

様子を実感できたといいます。

孤立死の割合は男性のほうが高いため、男性に向けたサロン活動を検討するようになりました。宮古市最大の仮設住宅のある田老地区は、3つの仮設団地で計407戸から成り、仮設住宅を歩き来する交流が見込めないことから、入りの管理棟を市から借りて、男性だけの居場所を2014年8月に開設しました。

田老地区の男性は、多くが漁師で運転免許を持っていないため、高台の仮設住宅への住み替えを機に、漁協を脱退する人も多く、自室にひきこもりがちでした。そこで、将棋や麻雀など、男性が好む娯楽を準備し、利用者は、自分の好きな遊びをして楽しんでいます。

仮設住宅に住む人だけでなく、近所の人や、復興住宅に住まいを変えても、この居場所に通い続ける人も多くいます。孤立防止が介護予防につながれば、と代表の三浦章さんたちは期待を寄せています。



大橋団地は、石巻市のほぼ中心部にある540戸から成る仮設住宅団地です。震災後、石巻市の担当職員から、健康教室の開設の打診があり、住民、市、県看護協会、市社協が協力して、保健師や栄養士の講話、健康相談など、それぞれが得意なことを持ち寄ったイベントを開催しました。主催を大橋メンズクラブとし、以降もゲームやクリスマス会なども開催しました。2年目以降、ダンベル体操など、体力の維持向

大橋メンズクラブ

石巻市社会福祉協議会 復興支援課 大橋エリア担当 エリア主任 吉澤 康友さん(宮城県石巻市)

上にとめる講座が中心となると、住民にとって体への負担が大きく、20〜30人の参加者が少しずつ減っていききました。

大橋メンズクラブは、2015年3月で活動を終了しましたが、その後、2つの男性の集いができました。「男の健康相談会」と「あっち向いてホイ」です。あっち向いてホイでは、男性の料理教室を中心に活動し、近所や仮設住宅、ボランティアとの交流をしています。2016年度には復興住宅への移行がピークになる見とおしですが、引越した人にも会長が声をかけるなど、住まいは変わっても参加を呼びかけ続けています。

サロン真こころ

松野 みき子さん(福島県南相馬市)

サロン真こころは、少しでも広いところでゆったりとした時間を過ごしてほしいと立ち上がった仮設住宅のなかの常設サロンです。住民は75歳以上の高齢者が中心のため、話しながら指先を使う折り紙を楽しんでいます。

サロンではほかに、若い人も参加しやすいパッチワーク教室、運動不足解消のための体操、ボランティアによるイベント、地元医師による講話などが行われています。

サロンには参加しなくても、仮設住宅のなかにサロンがあるだけで安心、という声も聞かれると言います。緊急時に救急車を呼んだこともありません。

現在は、住民のほとんどが自宅を再建したり復興住宅に移行したりしています。ですが、仮設住宅から出て、「最後の1人が仮設から出るまでは」と、元住民による支えが続いています。

最初はあいさつもできない間柄だったと言います。あいさつをし、話ができるようになり、居場所ができ、相手を思いやる気持ちが高まりました。サロンでの楽しみが生きたこととなり、全国からの支援に対するお礼をしたいと布ぞうりをつくっています。お礼をつくる、ということもまた、その人の生きがいになっていると言います。

松野みき子さんは、できるだけ介護を必要としないお年寄りの健康づくりをたずさわって、最後までそばに寄り添ってサポートしたい、と考えています。



※2016年3月13日に宮城県仙台市で開催された、平成27年度厚生労働省老健局・老人保健事業推進費等補助金事業「被災地でのサロン・ついで場の必要性」セミナー（CLC主催）の一部を編集・収録しました。

支え合い
S-1
グランプリ
第3回いがす大賞

東日本大震災・私の地域の元気興し

I.A

被災地の優れた住民支え合い活動を掘り起し、称え、広く発信するS-1グランプリ。

2016年2月20日(土)に仙台市内で開催された第3回の応募者、入賞者のアイデアと実践を、連載形式で紹介します。

準大賞、活動提案賞、奨励賞の受賞団体は、それぞれ、すでに本紙にて活動を紹介していますので、詳細は各団体掲載号をご覧ください。

授賞理由

ラジオ体操をきっかけに、一人ひとりがつながり、人生を楽しむだけでなく、お互いを支え合う活動は、たいへん素晴らしいことです。この取り組みを、さらに多くの人にお伝えいただきたく、この賞を贈ります。

ラジオ体操 & 歩こう会

S・1グランプリ準大賞を受賞したのは、福島県郡山市「ラジオ体操&歩こう会」(本紙37号掲載)。60〜80歳代の男女が、毎朝公園へラジオ体操とウォーキングに集まり、交流が育まれている。



授賞理由

住み慣れた地域で暮らし続けるために、元店舗を活用して近隣の方々が憩う場を設け、生活の楽しみを提供されている活動に感銘を受けました。サロンきじまを中心に、第三地区がますます発展することを願い、この賞を贈ります。

第三地区サロン きじま

被災地で生かせる被災地以外の取り組みを称える活動提案賞は、山形県山形市「第三地区サロンきじま」(同41号掲載)が受賞。一度閉店した食堂を常設サロンとしてオープンし、地域住民のつどい場になっている。



授賞理由

甚大な被害を受けた宮城県石巻市で多くのお母さんたちがつながり、地域で子育てに励む活動は大きな希望です。さらなる広がり期待し、この賞を贈ります。

特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻

当日、急遽設けられた奨励賞は、宮城県石巻市「特定非営利活動法人ベビースマイル石巻」(同42号掲載)が受賞した。小さい子どもを育てる母親たちの憩いの場や情報交換の場を設けている。



被災地で考える

若者支援のあり方

福島県福島市、桜の聖母女子短期大学にて、2月27日(土)、28日(日)の2日間にわたり、「第11回国若者・ひきこもり協同実践交流会inふくしま」が開催された(主催…若者支援全国協同連絡会・現地実行委員会)。ひきこもりや不登校、無職などの状況にある若者・子どもやその支援に携わる人たちが、交流し、学び合い、実践力を育むことを目的としたもので、500人以上が参加した。

今回は、福島県での開催にあたり、「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」が現地実行委員会事務局を務めた。全国からの参加者へ向け、全体会では福島県の被災・復興状況についての説明も設けられた。

この経験や思いが話された。シンポジウムのほか、居場所づくり、就労支援、ひきこもる家庭への支援、生活支援、若者との地域づくり、発達障害・精神障害、学びの場の多様化、震災と若者支援、家族交流など、13のテーマに分かれて実践交流会、特別分科会、ワークショップが開かれた。



震災と若者支援

震災と若者支援の特別分科会では、岩手県、宮

城県、福島県で活動するNPO法人が2日間で計9組、報告者として参加。震災孤児の心のケア、学習支援、居場所づくり、就労支援などの取り組みについて説明したり、ひきこもり・無職状態のときに起きた震災を機にNPOで社会参画し始めた自身のことをせきさらすに語るプログラムが組ま

れた。若者や若者への支援を地域の人に理解・協力してもらおう過程に関する話題では、宮城県石巻市の特定非営利活動法人TEDIC代表理事の門馬優さんが「地域の人が若者の状況などを正しく理解しきれていないこともあるが、困ったことを互いに支え合おうという



シンポジウムではステージ上で座談会を行った



震災と若者支援について、会場全体で意見交換をした

メッセージを伝えていくのがたいせつ」と語った。企画・運営に携わり、実践発表やコーディネートも務めた、ビーンズふくしま理事の中鉢博之さんは、「震災の教訓、学びを地域の今後のためにつなげたい。皆さんにもさらなる学びの機会にしてほしい」と話す。2日間をとおして、若者、支援者、地域の人が力を合わせ、活動の分野や地域の違いを超えて皆で課題と向き合うことの重要性を学んだ人が多いだろう。次回交流会は、17年3月に東京都で開催される。

清



可愛らしい エコタワシづくりで 女性の手仕事を応援

有限会社 コンテナおおあみ
(宮城県登米市)



登米市南方の編み手が集合して新商品を練習

宮城県登米市南方や南三陸町歌津・志津川、気仙沼市大島の4地区には、アクリル製の毛糸でエコタワシを編むお母さんたちがいる。東北の言葉でタワシのことを「もんだら」と呼んでいたことから、そのタワシのブランド名は「編んだもんだら」。

「おんなたちの復興プロジェクトさざほざ」の取り組みとして、プロデューサー足立千佳子さんがリードしている。タコやイカ、ホヤやサンマなど、海のものを中心に、いろいろなモチーフの商品をつくってきた。編み手は4地区で23人。各地区ごとに月1〜2回は集まり、一緒に作業をする。編み図やほかのメンバーのつくったものと見比べながら、ひと針ひと針、手慣れた様子で丁寧に編む。「ここは、こうだっけ?」と確かめ合ったり、たまに手を休めながら、最近の出来ごとを話したりする。メンバーは皆、海と長い間一緒に暮らしてきたお母さんたちばかりで、魚の形や色にこだわりがある。

仕掛け人の足立さんは、2011年9月から、南三陸町や登米市の仮設住宅集会所など40か所以上で編みもの教室を実施した。高齢になっても継続的に手仕事ができるよう、ボランティア団体からコンテナおおあみへ業務を移管し、編み手となる4地区の女性の人たちと一緒にビジネス化。震災前の仕事を失った人たちにとって、毛糸と編み針で手軽に取り組めるし、商品代金の4



色の異なる毛糸を上手に使い分ける



バリエーション豊富な、編んだもんだらシリーズ



商品プロデュースなどを幅広く担う足立千佳子さん

DATA

有限会社コンテナおおあみ
さざほざ事業部

〒987-0511
宮城県登米市迫町佐沼字大網218-1
TEL 0220-44-4210
FAX 0220-44-4202
URL <http://sazahoza.jimdo.com/>

割が編み手の作業代になる。編み手のメンバーは、「震災後の暮らしは社会から取り残されてしまったような気持ちだったから、この活動はありがたい。収入があるというだけでも、とても励みになる」。「震災で一転した生活のなかに心のよりどころができて嬉しい」と話す。今日も、編んだもんだらにお母さんたちの思いが編み込まれている。

宮城県サポートセンター支援事務所からのお知らせ



サポートセンター行脚

宮城県サポートセンター支援事務所 所長 鈴木守幸

新年度がスタートして早々に、九州の熊本県を中心とする大地震。テレビの映像を観ていて、5年前の東北の状況が蘇りました。被害状況は深刻で、被災者の方々の避難生活が長期化しそうです(今、この原稿を書いている時点で、余震が頻発しています)。相次ぐ災害は、今後も続くのでしょうか。

思い出すのは、学校の体育館等での避難生活です。まずは避難なのでしょうが、でも不自由で我慢させているようで、辛かった自分を思い出します。できる範囲で、災害弱者への手厚い配慮を心がけてほしいと願います。

仮設トイレの使い勝手の悪さに、高齢者がトイレに行くのを我慢し、水分を取らないようにしていたという話には、当時言葉を失いました。被災者の方々に忍耐を求める支援は本末転倒です。心のケアを行うには、エンパワメントのできる環境が重要であり、それでこそ有効なケアもできます。

今後日本中から、被災者支援に向けた動きが加速し、九州の被災地ではボランティアの方々、NPOの皆さんの活躍が期待されます。東日本大震災でも実に多くの支援者が、期待以上の頑張りを見せてくれました。それゆえ、支援が被災者に伝わる、復興に向けて自立していく力になるように、上手にマネジメントしてほしいと切に願います。

寝食を忘れて日夜働いていた宮城県の市町の職員が、自らも被災者であっても、避難所にあふれる被災者の支援に奔走せざるを得なかったことを思うとき、九州の状況は他人ごとではありません。そんな想いもあって、私たちが得た教訓で伝えていくべきことがあります。「被災者支援のサポートセンターの設置」であり、「住民の力を登用した被災者支援」を復興に向けての推進役としていくことです。

住民力をマネジメントして、伴走型・寄り添い型の見守り支援を築いてほしい。宮城県での取り組みは、九州にも活きるし、今後の災害時も同様です。地域福祉を支える住民力の下地は、きっと宮城県以上にあるので大丈夫!と思っています。

ひとりごと

サポーターのあなたへ



宮城県サポートセンター支援事務所
アドバイザー 浜上 章

“信じること!” まず自分自身を、何があっても～

『〇〇ちゃん元気か?』、伏し目がちで元気がない子どもが気にかかり声をかける。毎朝、家の前を30人前後の小学生が登校して行く。私が自宅にいるときは、子どもたちの登下校時に見守り、声をかけ、ハイタッチのあいさつを交わす。“学校安全協力員”になって丸3年。今年も5人の子どもたちが小学校を卒業していった。

いろいろな子どもたちがいる。いつも元気な子、大人しく控え目な子、落ち着いて賢そうな子、やんちゃな子、ちょっと寂しそうな子、しょっちゅう遅れて来る子、みんな可愛い。みんな元気で成長してほしいと心から願う。

ただ、元気がない、淋しそうな子どものことが気にかかる。もし、その子に何か贈る言葉をかけるとしたら何と言ってあげたらよいのだろうか?と、ふと思った。

『自分を信じること!たとえどんなことがあっても、とことん自分を信じること～』というフレーズが浮かんできた。自分にまったく自信がもてないときもある。人生で“不運”な出会い、出来ごとに遭遇することもある。“失敗”もある。人から否定され、劣等感と孤立感にさいなまれ、自死したいと思うこともある。職場や家族とうまくいかないときもある。たいせつな人を亡くし、悲嘆にくれることもある。自分をコントロールできずに道を外れ、人や社会から批判を受け絶望の淵に立たされることもあるかもしれない…。生きている以上、いろいろある。

でも、たとえどんな状況のときでも、最後は、自分を信じて、信じて、信じていくことができれば、少しは自分を肯定でき、踏ん張れる。そこから前に向いていける。いつかは必ず良くなる……。

自分を信じること、が人として生きていくうえでのすべての始まりであり、辛いときに踏ん張れる最後の拠りどころになる。そんな気がする。この言葉は、子どもたちへ、というよりも深いところからの自分自身へのメッセージのような気がしてきた。

平成28年度 宮城県被災者支援従事者研修事業

<支援に関わるための基礎研修>

【仙台会場】 5月31日(火)・6月1日(水) 東京エレクトロンホール宮城
講師: 永坂 美晴(明石市望海在宅介護支援センター センター長)
岩城 和志(淡路市社会福祉協議会 参事 兼 地域支え合いセンターいちのみや センター長)

宮城県サポートセンター支援事務所

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-7-4 宮城県社会福祉会館3階 TEL 022-217-1617 FAX 022-217-1601

若者支援を中心に幅広い事業に取り組んでいる「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」は、老若男女誰もがつながれる「みんなの家@ふくしま」を運営している。平日10時から16時の間、親子や地域住民と一緒に遊んだり、ご飯を食べたり、年齢・性別を問わずふれあいが育まれる。

震災後に県外へ避難していた母親たちが、帰った地域で充実した生活を送れるよう、母親同士お茶を飲んでくつろぎ、おしゃべりや情報交換で

きる「ままカフェ」を、毎月県内5か所で開催してきた。その延長で、民家を借りて常設のつどい場として2015年3月19日にみんなの家をオープンした。利用者は、年間500円（保険料含む）で世帯ごとに会員登録。1年間で176世帯、442人が会員となった。

県外から福島県に戻ってきた母親に限らず、乳幼児・小学生・中高生の母親、父親、近所の地域住民などの時間枠を毎月1回ずつ設け、家庭状



「みんなの家」ののぼりが目印！



居心地のいい民家で、子どももスタッフも仲良し

況や立場の近い人同士も集まりやすい。放射能に関する勉強会やイベントも行う。昨夏の流しそうめん大会では、青竹の代わりに、ペットボトルをつなげた装置を若者たちが手づくりし、親子や地域のお年寄りたちと、にぎやかに交流した。

「子どもだけとか、若者だけでなく、ゆるやかにだけど、いろいろな人たちが関わり合っ、それぞれがエンパワメントされている。そういうところが今の福島にはたいせつだと思う」と、事業長の富田愛さんは話す。

清

購読者を募集しています！

「月刊 地域支え合い情報」を年間購読しませんか？

購読会員 年3,696円（年12回、送料込み）

購読ご希望の方は下記口座へお振り込みください。編集部にて確認次第、情報紙を発送いたします。

◎お振込先

●ゆうちょ銀行振替口座

口座番号：02260-9-46303

加入者名：全国コミュニティライフサポートセンター

※通信欄に、「地域支え合い情報紙 購読費」と記入したうえで、

①お届け先の住所 と ②何号からの購読申込みを記入してください。

読者の声

月刊「地域支え合い情報」は、コミュニティ（地域づくり）から震災・復興を考え、提案していくために生まれた情報紙です。ぜひ忌憚のないご意見・ご感想をFAXまたはメールにて編集部までお聞かせください。

地域の個性ともいえるお祭り。その裏で、伝統を次世代に引き継ぎたい熱い思いをもつ大人と、その背中に心を動かされた、子どもをはじめとする大勢の人が、本気で練習している様子に胸が熱くなりました。（仙台市泉区 R・I）

お知らせ

☆次号予告 特集「サロンで笑顔を咲かせよう」

平成28年度 宮城県生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）養成研修

<初級研修>

【栗原会場】 5月19日（木） エポカ21（くりはら交流プラザ）

【仙台会場】 5月26日（木） 戦災復興記念館

【大河原会場】 5月27日（金） 大河原合同庁舎

講師：高橋 誠一（東北福祉大学 教授）

志水 田鶴子（仙台白百合女子大学 准教授）

池田 昌弘（全国コミュニティライフサポートセンター 理事長）

あなたの活動・地域の活動情報をお寄せください！

TEL 022-727-8730 FAX 022-727-8737

E-mail johoh@clc-japan.com

編集後記

今回の特集では、若者が調子を整えたり、力を蓄えていくのに貢献する地域のありようを紹介しました。個人が社会と接点をもちやすくなるように、社会からも個人一人ひとりに歩み寄るのがたいせつなのだと感じました。社会とつながるには、使うエネルギーも多いかもしませんが、それによって得られるものも多いようです。（清野）

バックナンバーがホームページで読めます！
http://www.clc-japan.com/sasaesai_j/